


**出張所の郵便局への業務委託について**

勝木 幸生 (天政会)



【出張所の業務委託について】

**問** 出張所から郵便局への業務委託に係る経緯は。

**答** 出張所での各種証明書の取扱いや相談、文書の取次ぎなどの件数が年々減少する中、出張所を廃止するには、出張所と同等の代替サービスが必要である。郵便局側も「委託を受けて必要とされる地域の郵便局でありたい」という考えを持っている。このことから、地域に根差した郵便局への委託が最善と判断した。

**問** 出張所存続の方策はなかったのか。


**答** ①窓口開所時間を短縮する案、②開所日を縮小する案、③1日当たりの取扱い件数が少ない出張所から段階的に廃止する案を検討したが、各地域の住民へのサービスを低下させない必要があるため、地域の郵便局への業務委託とした。

**問** 現在、出張所がない下浦、宮地岳、本町、楠浦地域への委託は考えないのか。

**答** 今回は出張所廃止の代替策。委託された地域の件数や効果などを検証し、住民サービスの維持向上に有効であれば、拡大を検討したい。


**問** 令和6年10月の郵便局での業務開始へ向けて、万全たる周知・説明と郵便局側との協議を進めることを求める。

**答** 住民サービスが低下しないよう、また住民が不安を抱かないよう、しっかり対応する。

**天草夕陽八景モニュメント設置及び八代・天草シーラインについて**

浜崎 昭臣 (政友会)



【天草夕陽モニュメント設置について】

**問** 夕陽モニュメント設置に関し、私の6月議会一般質問に対する答弁で「地元の方々为主体となった設置への取組に対しては、市として積極的に支援していく」とのことだった。今回改めて天草町・旧牛深市に各1か所、天草夕陽八景モニュメント設置要望書を提出したが、許可いただけるか。

**答** 「まちづくりチャレンジ支援交付金」という既存の補助制度があるため、申請をお願いしたい。


【八代・天草シーラインについて】

**問** 市長に対し、八代・天草シーライン促進期成会の副会長就任要請が日々強まっているが、副会長受諾の考えはないかお尋ねする。また、市長にとって同シーラインの重要性をどの程度認識されているか、見解と決意のほどを伺う。

**答** 八代・天草シーラインに関し、行政機関が組織する団体は2団体ある。令和3年2月熊本県知事を会長とする同シーライン建設促進協議会が設立された。令和5年度の同シーライン建設促進期成会総会で理事の承認を受けたため、理事の立場で推進をしていく。天草への架橋建設は、すべての架橋が重要である。同シーラインについては、協議会を主体として鋭意取り組んでいく。




▲八代・天草シーラインイメージ図



**天草の経済発展のための対策及びごみの減量化・資源化について**

浜崎 義昭 (日本共産党)



【天草の経済発展のための対策について】


**問** 天草では多くの加工事業者が営業している。特に水産業については、漁業者・仲買業者・加工業者との連携が重要であり、食の無形文化遺産にも登録されており、日本食の原点である雑節を守ることが天草の経済を循環させることにつながる。加工業関係者からは、資材・使用料・保管料・冷凍賃料すべて値上げになり、運営が厳しくなっている状態と聞く。第一次産業と地場産業のおかれている現状を把握し、循環型経済を滞りなく行うために行政の手助けが必要では。

**答** 経済の好循環を図っていくためにも、経済団体や事業者と連携・協力しながら進めていく必要があると考えている。

【ごみの減量化・資源化について】


**問** ごみの減量化と資源化の努力をされているが、これらについて重点的に取り組むことが求められる。人口の減少とともに、ごみの総重量が減るのは当然であるが1人当たりのごみの量を見ると増えている。今まで一般廃棄物として処理されていたものの中に資源化できるものがある。今まで廃棄物ととらえていたものを、未利用資源と考え方を変えることで見えてくるものがある。今後、未利用物の資源化に取り組んでいくべきではないか。

**答** 排出されるごみの中には、資源物として取り扱われるものが含まれているため、ごみの資源化・減量化に取り組む。

**コミュニケーションアプリJoin及び消防団の猛暑対策について**

五通 俊作 (公明党)



【医療関係者間コミュニケーションアプリJoinについて】

**問** 医療関係者と救急隊の連携強化を目的に導入されている医療関係者間コミュニケーションアプリJoinとは。

**答** Joinとは、スマートフォンやタブレット、PC等を使用し、写真・動画の送受信、チャット機能等が使用できるアプリである。救急隊が撮影した外傷の状況や心電図画像等を医療機関の端末へ送信し、チャット機能を利用して、患者の容体等を現場や搬送中に医療従事者に伝えることができる。また、医師からの指示を受けられることで、迅速で的確な対応が可能となる。

**問** 本アプリの市立病院への導入の考えは。

**答** 救急医療の現場で従事する医師、看護師等とともにこれらのシステムについて協議していく。



【消防団の猛暑対策について】

**問** 過酷な気象条件の中、安全に消防団活動ができるよう、空調ベストの着用は必要と考えるが本市の考えは。

**答** 火災時の着用による事故等のリスクを考えると導入には慎重な検討が必要である。国の助言等も踏まえ、消防活動時の熱中症対策の周知徹底を図っていく。